

# 東みよし町「旧三加茂町」の社寺建築

社寺建築班（郷土建築研究会）

酒巻 暢代\*1 橋本 美保\*2 木宮 茂樹\*3 黒崎 仁資\*4 坂口 敏司\*5 中野 真弘\*6  
 中山 秀樹\*7 真鍋 憲資\*8 松江 純生\*9 宮田 育典\*10 森兼 三郎\*11

要旨：神社本殿の建築様式は、ほとんどが流造で、一部に入母屋造がみられた。また、徳島県西部の特徴である直線肘木を多く確認することもできた。寺院本堂は、3カ寺で江戸時代末期の建物を確認した。お堂は、山間部・平地部ともにすべて閉鎖形であった。

キーワード：直線肘木，棟札

## 1. はじめに

東みよし町「旧三加茂町」は徳島県西部，吉野川の南岸に位置し，東はつるぎ町半田，西は三好市井川町，南は東祖谷と西祖谷，北は三野町と東みよし町の旧三好町に隣接している。

私たち社寺建築班は，7月27日から旧三加茂町に入り，社寺建築を建築学的見地から，神社20社，寺院10カ寺，お堂・お庵22カ所を調査し，案内図を作成した（図12）。それぞれの<sup>こんりゅう</sup>建立年代や構造，建築様式などを一覧表（表1・2・3）にまとめ，そのうち神社3社，寺院1カ寺について詳細調査を行い，実測図を作成した。また，神社2社とお堂2カ所で

14枚の<sup>むなふだ</sup>棟札を調査，寸法・年代・大工名等の内容を記録し表にまとめた（表4）。建築年代は書籍や棟札から確認できるもの以外は，建築様式から推測した。以下その内容について報告する。

## 2. 東みよし町「旧三加茂町」の社寺建築概要

### 1) 神社建築の概要

調査において棟札が確認できたものは，加茂オノ神の新宮神社である。当初の建物は火災で焼失し，明治21年（1888）上棟が現在の<sup>ほんでん</sup>本殿となる。

本殿の建築様式は，徳島県下で最も多い流造が10社，<sup>いりもやぶり</sup>入母屋造が3社，その他に小社殿がみられた。今回の調査で確認した入母屋造の本殿は，屋根前面

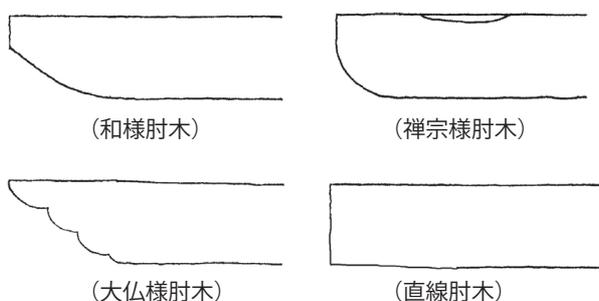


図1 様式別肘木先端の形状図



図2 直線肘木（稲荷神社本殿）

\*1 Y・M・設計室 \*2 遊木民 \*3 木宮建築設計事務所 \*4 黒崎建設 \*5 坂口建築設計室 \*6 真建築都市研究室  
 \*7 建築工房ナカヤマ \*8 studio KEN \*9 松江建築設計室 \*10 宮田建築設計工房 \*11 A+U 森兼設計室

千鳥破風ちどりばふが付き、拝殿はいでんも入母屋造であることから、権現造ごんげんづくりを意識していると考えられる。権現造とは日光東照宮の建築様式で、入母屋造の本殿と拝殿を石の間で繋いだ複合建築物である。

鳥居とりいは、注連縄鳥居しめなわが多くみられた。注連縄鳥居とは、2本の石柱を建て、この間を注連縄で結ぶものである。10社で確認し、すべて注連縄鳥居の背面に明神鳥居みょうじんが並列する。

徳島県西部の建築様式の特徴である直線の肘木ひじきが、加茂山ノ上の鴨神社本殿と拝殿など、6社と1鎮守堂ちんじゆどうの計8棟でみられた。肘木とは斗拱ときょうの一つで、柱の上に置かれ上部の構造を支える部材である。一般的な肘木は、両端がゆるやかなカーブになるよう加工されているが、今回の調査でみられた肘木は、両端部が切り放しのままの直線である(図1・2)。以下、このような肘木を「直線肘木」と呼ぶ。直線肘木は、香川県の金刀比羅宮本殿をはじめ、阿波学会の調査では、つるぎ町半田・井川町・美馬町などで確認されており、旧三加茂町の調査からも、徳島県西部の広範囲で用いられていることが分かった。なお、つるぎ町半田の石堂神社本殿は、直線肘木を用いた代表的な建築で、町の有形文化財に指定されている。

加茂金川谷の石鎚神社本殿は、壁と天井を野面石の乱積み(緑泥片岩)で造られた覆屋おおいやに囲われている(図3)。今回の調査で唯一の石積み建築であるが、井川町の調査では、類似形状の拝殿を数棟確認している。

西庄土久保の荒神社本殿きざしの階こうはいしらは、向拝柱に挟まれた中央部が途切れる珍しい形状であった(図4)。昇高欄のぼりこうらん両筋に残る階は木口4級で、その断面から後補によるものとは考えにくい。地元の80代男性によると旧来からこの形状であり、階を省略して棚を設ける見世棚造とも異なる。

西庄小伝の新田神社拝殿や荒神社本殿などに、卍まんじが刻まれていた(図5)。5社5棟で確認し、左卍1カ所・右卍4カ所で、場所は本殿の棟の鬼板おにいたや妻飾つま飾、拝殿の獅子口である。蜂須賀家の家紋が「丸に左卍」であるが、蜂須賀家のものか、仏教の影響かは定かではない。



図3 石鎚神社本殿と覆屋



図4 荒神社本殿 階



図5 荒神社本殿 妻飾の卍



図6 長善寺本堂



図7 極楽寺本堂



図8 福性寺薬医門



図9 円仏堂の石室



図10 中屋薬師堂



図11 明地観音堂

## 2) 寺院建築の概要

寺院本堂は10カ寺にあり、建築様式や寺伝から3カ寺が江戸時代末期の建物と考えられる。毛田の舞寺本堂の観音堂は正面三間、奥行四間、宝形造、本瓦葺、向拝は一間緹破風の建物で、建築様式より江戸時代末期の建築と推測される。中庄の長善寺本堂は桁行五間、入母屋造、本瓦葺の建物で、寺伝によると嘉永2年(1849)の建築である(図6)。西庄山田の極楽寺本堂は桁行五間、寄棟造、本瓦風スレート葺の建物で、寺伝によると慶応元年(1865)の建築である(図7)。長善寺と極楽寺の本堂は、柱上部に斗拱がなく、簡素な造りであった。

山門は、舞寺・長善寺・極楽寺・中庄の林下寺の4カ寺が、梵鐘を吊るす鐘楼門である。規模は、舞寺と極楽寺が三間一戸、長善寺と林下寺が一間一戸であった。加茂の福性寺・興聖寺の2カ寺は、一間一戸の薬医門である(図8)。薬医門は、棟の位置が梁間の2本の柱筋上部になく、内側に寄っていることが特徴である。

お堂・お庵は22カ所を調査し、棟札が確認できたものは2カ所であった。西庄の谷合薬師堂は平成11年の建築であり、奥村の明地観音堂では5枚の棟札を所有していたが、現在の建物に該当するものはなかった。

建物の形状は、山間部・平野部ともにすべて閉鎖形であった。加茂の炭焼大師堂と川村観音堂は、正面三間、奥行四間、宝形造、本瓦葺、向拝は一間緹破風の建物である。西庄の中屋薬師堂は三間堂、宝形造、茅葺トタン巻の建物であり、正面右側に水廻りが増築されていた(図10)。奥村の明合大師堂は桁行三間、梁間四間、寄棟造、茅葺トタン巻の建物で、明地観音堂は正面三間、奥行四間、宝形造、トタン葺の建物であった(図11)。

西庄西伊勢久保の円仏堂の墓地にて、宝永3年(1706)の石室を確認した。向唐破風造で、観音開きの扉が付く(図9)。

寺院やお堂・お庵の建物は、全体の5分の1が旧来の形状を保っているものの、新建材(サッシやトタン)で改修するものが多くみられた。残り5分の4は様式を踏襲せず造られたものであった。

表1 神社建築調査一覧表

| 神社名              | 鎮座地         | 創建                           | 祭神   | 旧社格 | 鳥居様式(材料)  |
|------------------|-------------|------------------------------|--|-----|---|
| a 新田神社<br>にった    | 西庄小伝96      | 不詳※2                         | 大己貴尊 志那津比古命 志那津比売命<br>大山津見命                      |     | 明神鳥居(花崗岩) 大正11年<br>注連縄鳥居(花崗岩) 昭和2年                    |
| b 八柱神社<br>やばしら   | 西庄山田79      | 不詳※2                         | 正哉吾勝々速日天忍穗耳命 天穗日命<br>天津日子根命 活津日子根命 熊野久須日命ほか      | 旧村社 | 明神鳥居(花崗岩) 大正7年<br>注連縄鳥居(花崗岩) 大正9年                     |
| c 貴布禰神社<br>きぶね   | 西庄平7        |                              | 高養神 猿田彦神 罔象女神 阿多都姫命<br>船玉神 大国主命 事代主命             | 旧村社 | 明神鳥居(RC) 昭和50年<br>注連縄鳥居(花崗岩) 昭和4年                     |
| d 金丸八幡神社<br>はちまん | 中庄村道南1187   | 不詳※2                         | 応神天皇 神功皇后 仁徳天皇 天津加佐比古命<br>武内宿弥命                  | 旧村社 | 明神鳥居(花崗岩) 享保年間<br>注連縄鳥居(花崗岩) 大正6年                     |
| e 五藏神社<br>いつたき   | 中庄山口2050    | 不詳※2                         | 伊弉諾尊 伊弉冉尊 速秋津日子命 速秋津日女命<br>沫那芸神 沫那美神 類那美神 天水分神ほか | 旧村社 | 明神鳥居(花崗岩) 享保15年<br>注連縄鳥居(花崗岩) 昭和3年                    |
| f 照王神社<br>てるおう   | 毛田藤4635-2   |                              | 神直日神 大直日神 稲田姫神 稚魂命<br>素戔嗚命                       |     | 明神鳥居(RC) 昭和62年<br>明神鳥居(花崗岩) 大正13年<br>注連縄鳥居(花崗岩) 昭和57年 |
| g 鴨神社<br>かも      | 加茂山ノ上3650   |                              | 別雷命  | 旧郷社 | 明神鳥居(木) 平成8年<br>明神鳥居(花崗岩) 平成15年<br>注連縄鳥居(花崗岩) 平成13年   |
| h 武大神社<br>ぶだい    | 加茂古川1310    | 文明年間(1469~1487)の<br>創建と伝わる※2 | 素戔嗚命   | 旧村社 | 明神鳥居(花崗岩) 大正10年<br>注連縄鳥居(花崗岩) 大正10年                   |
| i 皇子神社<br>おうじ    | 加茂炭焼6044    | 不詳※2                         | 正哉吾勝々速日天忍穗耳命                                     |     | 明神鳥居(花崗岩) 昭和4年<br>注連縄鳥居(花崗岩) 昭和15年                    |
| j 新宮神社<br>しんぐう   | 加茂才ノ神462    | 不詳※2                         | 事解男命   |     | 明神鳥居(花崗岩) 天保9年<br>注連縄鳥居(花崗岩) 大正14年                    |
| k 稲荷神社<br>いなり    | 加茂稲持上6352-2 | 不詳※2                         | 倉稲魂神 軻遇突智神                                       | 旧村社 | 明神鳥居(RC) 平成7年<br>擬西部鳥居(木) 平成17年                       |
| l 八幡神社           | 加茂          |                              |  |     | 明神鳥居(花崗岩) 平成14年                                       |
| m 武大神社           | 〃           |                              |  |     | 明神鳥居(木) 不明  |
| n 澤田神社           | 〃           |                              |  |     | なし  |
| o 天満宮            | 〃           |                              |  |     | 明神鳥居(木) 不明  |
| p 天龍王白姫大神        | 〃           |                              |  |     | なし  |
| q 国政の名小宮         | 西庄国政        |                              |  |     | なし  |
| r 荒神社            | 西庄土久保       |                              |  |     | なし  |
| s 石鐘神社<br>いしづち   | 加茂金川谷       | 弘化二年(1845)※2                 | 石鐘比古命 石鐘比売命                                      |     | 様式外(木) 不明   |
| t 横田神社<br>よこた    | 加茂中村        |                              | 市杵島姫神  |     | なし  |

※1 三加茂町史(昭和48年) ※2 徳島県神社誌

RC造: 鉄筋コンクリート造

表2 寺院建築調査一覧表

| 寺院名          | 所在地     | 開基 | 宗派   | 本尊       |
|--------------|---------|----|------|----------|
| A 舞寺         | 毛田1111  |    | 真言宗  | 観世音菩薩    |
| B 長善寺        | 中庄2586  |    | 真言宗  | 虚空蔵菩薩    |
| C 林下寺        | 中庄2271  |    | 真言宗  | 文殊菩薩     |
| D 十輪寺        | 大藤      |    | 真言宗  | 地藏菩薩     |
| E 西法寺        | 毛田386   |    | 真言宗  | 地藏菩薩     |
| F 極楽寺        | 西庄山田4   |    | 真言宗  | 薬師如来     |
| G 西福寺        | 西庄池上104 |    | 浄土真宗 | 阿彌陀如来    |
| H 福性寺        | 加茂3877  |    | 真言宗  | 延命地藏尊    |
| I 興聖寺        | 加茂389   |    | 真言宗  | 十一面観世音菩薩 |
| J 高越寺分院(大天宮) | 中庄西山路   |    |      |          |

※1 三加茂町史(昭和48年) ※3 近世社寺

表3 お堂・お庵建築調査一覧表

| 寺院名        | 所在地     | 本尊                | 建物名 屋根形式 屋根材          |
|------------|---------|-------------------|-----------------------|
| 1 炭焼大師堂    | 加茂      | 弘法大師              | 木造 宝形造 瓦葺 一間向拝縁破風     |
| 2 黒岩観音堂    | 加茂      | 馬頭観音菩薩            | 木造 宝形造 銅板葺            |
| 3 坊谷庵      | 加茂      | 阿彌陀如来             | 木造 切妻 瓦葺 下屋付          |
| 4 中村薬師庵    | 加茂      | 薬師如来              | 木造 入母屋下屋付 銅板葺         |
| 5 中川原阿彌陀堂  | 加茂      | 阿彌陀如来             | 木造 宝形造 瓦葺             |
| 6 漆谷不動院    | 加茂      | 不動明王              | 木造 入母屋下屋付 トタン葺 一間向拝切妻 |
| 7 中屋薬師堂    | 西庄中屋    | 薬師如来              | 木造 宝形造 茅葺トタン葺         |
| 8 薬師堂      | 西庄宮浦    | 薬師如来              | 木造 切妻造 瓦葺 下屋付         |
| 9 谷合薬師堂    | 西庄谷合    | 薬師如来              | 木造 切妻造(妻入) 瓦葺         |
| 10 国政地藏庵   | 西庄国政    | 地藏菩薩              | 木造 切妻 瓦葺              |
| 11 地藏堂     | 西庄宗本    | 地藏菩薩(引地) 弘法大師(宗本) | 木造 切妻造 トタン葺           |
| 12 北村観音堂   | 加茂      | 観音菩薩              | 木造 宝形造 銅板葺 一間向拝縁破風    |
| 13 原釈迦庵    | 加茂      | 釈迦如来              | 木造 宝形造 瓦葺 一間向拝縁破風     |
| 14 びわの橋大師庵 | 加茂      | 弘法大師              | RC造                   |
| 15 川村観音堂   | 加茂      | 観世音菩薩             | 木造 宝形造 瓦葺 一間向拝縁破風     |
| 16 井関薬師堂   | 西庄井関186 | 薬師如来              | 木造 宝形造 トタン葺           |
| 17 円仏堂     | 西庄西伊勢久保 | 地藏菩薩              | 木造 切妻造下屋付 瓦葺          |
| 18 北山口大師堂  | 中庄山口    | 弘法大師              | 木造 切妻 瓦葺 下屋付          |
| 19 南山口大師堂  | 中庄山口    | 弘法大師              | 木造 宝形造 トタン葺/木造 切妻造 瓦葺 |
| 20 大藤観音堂   | 大藤上所    | 聖観音菩薩             | 木造 宝形造 銅板葺 一間向拝縁破風    |
| 21 明合大師堂   | 奥村明合    | 弘法大師              | 木造 寄棟造 茅葺 トタン葺        |
| 22 明地観音堂   | 奥村明地    | 観音菩薩              | 木造 宝形造 トタン葺           |

※1 三加茂町史(昭和48年) ※4 阿波のお堂 ※5 三好郡のお堂とお庵

RC造: 鉄筋コンクリート造

表4 棟札調査一覧表

| 名称               | ○は現存建物 | 番号  | 西暦   | 年号 | 年  | 干支 | 月日      | 目的 | 大工               | その他                    |
|------------------|--------|-----|------|----|----|----|---------|----|------------------|------------------------|
| 9 谷合薬師堂          |        | 1   | 1936 | 昭和 | 11 | 丙子 | 旧三月二十一日 | 上棟 | 大工 三庄村 吉村安道 長谷藤平 |                        |
|                  | 薬師堂    | ○ 2 | 1999 | 平成 | 11 | 己卯 | 十一月吉祥日  | 再建 | 大工 上野建築 上野正明     |                        |
| 22 出雲神社<br>明地観音堂 |        | ○ 1 | 1922 | 大正 | 11 | 壬戌 | 十一月二十二日 | 再建 | 大工 当名 原田幾郎       | (荒神社にて調査)              |
|                  |        | 2   | 1779 | 安永 | 8  | 己亥 | 正月吉祥日   | 修  | 大工 藤原朝臣喜代松       | 木挽 三之丞                 |
|                  |        | 3   | 1841 | 天保 | 12 | 辛丑 | 二月十八日   | 修  |                  |                        |
|                  |        | 4   | 1882 | 明治 | 15 | 壬午 | 二月四日    | 修  | 大工 中山伊勢吉         |                        |
|                  |        | 5   | 1882 | 明治 | 15 | 壬午 | 九月七日    | 修  | 大工 半田 奥山村 中山伊勢吉  |                        |
| j 新宮神社           | 瀧社     | 1   | 1600 | 慶長 | 5  | 庚子 | 十二月万吉日  | 造立 | 大工者 東藏宗          |                        |
|                  | 真宮大明神  | 2   | 1600 | 慶長 | 5  | 庚子 | 十一月十八日  | 再建 | 大工 喜兵衛           |                        |
|                  | 真宮大明神  | 3   | 1640 | 寛永 | 17 | 庚辰 | 九月〇日    | 造立 | 大工 才太郎 同〇〇久八     |                        |
|                  | 新宮神社   | 4   | 1880 | 明治 | 12 | 己卯 | 四月廿四日   | 上棟 | 大工棟梁 武田道藏藤原国光    | 小工 喜多宇藏藤原正秀<br>小工 前田金太 |
| 拝殿               |        | 5   | 1868 | 明治 | 21 | 戊子 | 初月十五日   | 上棟 |                  |                        |
| 本殿               | ○      | 6   | 1868 | 明治 | 21 | 戊子 | 九月七日    | 上棟 | 工匠 本郡昼間村住 重田今吉   |                        |

平成24年12月末日現在

| 本殿 建築様式                                   |                       | 拝殿 建築様式 向拝            |                       | 特記事項        | A | B | C |
|---|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-------------|---|---|---|
| 木造 一間社流造 銅板葺                              | 木造 入母屋造 千鳥破風 銅板葺      | 木造 入母屋造 千鳥破風 銅板葺      | 木造 入母屋造 千鳥破風 銅板葺      |             |   |   |   |
| 木造 一間社流造 銅板葺                              | 木造 入母屋造 鉄板葺 セイガイ造     | 木造 入母屋造 鉄板葺           | 木造 入母屋造 鉄板葺           | 拝殿の壁に鍍絵     | ○ | ○ | ○ |
| 本殿：木造 一間社流造 銅板葺<br>出雲神社（本殿右）：木造 一間社流造 鉄板葺 | 木造 入母屋造 銅板葺           | 木造 入母屋造 銅板葺           | 木造 入母屋造 銅板葺           | 出雲神社 実測調査   |   | ○ |   |
| 木造 三間社流造 銅板葺                              | 木造 入母屋造 瓦葺            | 木造 入母屋造 瓦葺            | 木造 入母屋造 瓦葺            | 岩境あり        | ○ |   |   |
| 木造 一間社流造 銅板葺                              | 木造 入母屋造 瓦葺            | 木造 入母屋造 瓦葺            | 木造 入母屋造 軒唐破風          |             |   | ○ | ○ |
| 本殿：木造 一間社流造 銅板葺<br>末社（本殿右）：木造 一間社流造 銅板葺   | 木造 入母屋造 銅板葺           | 木造 入母屋造 銅板葺           | 木造 入母屋造 銅板葺           |             |   | ○ |   |
| 木造 三間社 入母屋造 千鳥破風 銅板葺                      | 木造 入母屋造 銅板葺           | 木造 入母屋造 軒唐破風          | 木造 入母屋造 軒唐破風          | 延喜式内社       |   | ○ |   |
| 木造 一間社流造 銅板葺                              | 木造 入母屋造 瓦葺            | 木造 入母屋造 瓦葺            | 木造 入母屋造 瓦葺            | 七間社流造の小社殿あり |   |   |   |
| 木造 一間社流造 銅板葺                              | 木造 入母屋造 瓦葺            | 木造 入母屋造 瓦葺            | 木造 入母屋造 瓦葺            |             |   |   | ○ |
| 木造 二間社 入母屋造 千鳥破風 銅板葺                      | 木造 入母屋造 瓦葺            | 木造 入母屋造 瓦葺            | 木造 入母屋造 瓦葺            | 棟札調査 実測調査   |   |   |   |
| 木造 三間社 入母屋造 銅板葺                           | 木造 入母屋造 瓦葺            | 木造 入母屋造 瓦葺            | 木造 入母屋造 瓦葺            |             |   | ○ |   |
| 木造 小社殿 覆屋                                 | 木造 切妻造 瓦葺/向拝なし        | 木造 切妻造 瓦葺/向拝なし        | 木造 切妻造 瓦葺/向拝なし        |             |   |   |   |
| 木造 一間社流造 折屋根 見櫓造 銅板葺                      | 木造 切妻造 瓦葺/向拝 総破風      | 木造 切妻造 瓦葺/向拝 総破風      | 木造 切妻造 瓦葺/向拝 総破風      |             |   |   |   |
| 木造 小社殿                                    | 木造 切妻造 瓦葺/向拝なし        | 木造 切妻造 瓦葺/向拝なし        | 木造 切妻造 瓦葺/向拝なし        |             |   |   |   |
| 木造 小社殿 覆屋                                 | 木造 入母屋造 瓦葺/向拝 総破風     | 木造 入母屋造 瓦葺/向拝 総破風     | 木造 入母屋造 瓦葺/向拝 総破風     | 加茂の大楠       |   |   |   |
| 木造 小社殿 覆屋                                 | なし                    | なし                    | なし                    |             |   |   |   |
| 木造 小社殿 覆屋                                 | 木造 切妻造（妻入）下屋付 瓦葺/向拝なし | 木造 切妻造（妻入）下屋付 瓦葺/向拝なし | 木造 切妻造（妻入）下屋付 瓦葺/向拝なし |             | ○ |   |   |
| 木造 一間社流造 銅板葺                              | 木造 切妻造下屋付 鉄板葺/向拝なし    | 木造 切妻造下屋付 鉄板葺/向拝なし    | 木造 切妻造下屋付 鉄板葺/向拝なし    |             |   |   | ○ |
| 陶器製小社殿 覆屋                                 | 木造 切妻造 瓦葺 セイガイ造       | 木造 切妻造 瓦葺 セイガイ造       | 木造 切妻造 瓦葺 セイガイ造       |             |   |   |   |
| 木造 小社殿                                    | なし                    | なし                    | なし                    | 延喜式内社       |   |   |   |

A：地神塔 B：直線肘木 C：卍

平成24年12月末日現在

| 建物名 屋根形式 屋根材                             | 特記事項       |
|--|------------|
| 本堂（観音堂）：木造 一重 宝形造 銅板葺/向拝 総破風             | 実測調査       |
| 大師堂：木造 一重 寄棟造 鉄板葺 鎮守堂：木造 一間社流造 銅板葺       | 仁王門に梵鐘を吊るす |
| 仁王門：木造 一重 入母屋造 鉄板葺                       |            |
| 本堂：木造 一重 入母屋造 瓦葺 鐘樓門：木造 切妻造 瓦葺           | 駅路寺 稲荷堂あり  |
| 本堂：木造 一重 切妻造下屋付 瓦葺 鐘樓門：木造 切妻造 鉄板葺        |            |
| 本堂 木造 一重 入母屋造 銅板葺/向拝 総破風                 | 鎮守堂あり      |
| 本堂 木造 一重 入母屋造 瓦葺                         |            |
| 本堂：木造 一重 寄棟造 本瓦風スレート葺 鐘樓門：木造 切妻造 瓦葺      |            |
| 本堂 木造 一重 入母屋造 瓦葺/向拝 総破風                  |            |
| 本堂：木造 一重 入母屋造 瓦葺/向拝 総破風 薬医門：木造 切妻造 瓦葺    |            |
| 本堂 木造 一重 入母屋造下屋付 瓦葺/向拝 総破風 薬医門：木造 切妻造 瓦葺 |            |
| 本堂 木造 一重 入母屋造（妻入）下屋付 瓦葺                  |            |

平成24年12月末日現在

| 特記事項                 |
|----------------------|
|                      |
|                      |
|                      |
| 昭和59年改築              |
|                      |
| 福性寺 奥ノ院              |
|                      |
|                      |
| 棟札調査                 |
|                      |
| 平成18年 引地と宗本を一纏に祭る    |
| 平成9年建替               |
| 昭和32年建築/平成20年改修      |
|                      |
|                      |
| 昭和61年建築              |
|                      |
| 昭和6年建築/昭和56年・平成24年改修 |
|                      |
|                      |
| 棟札調査                 |

| 寸法                   | 鬼門切 | 備考                    | 調査日         |
|----------------------|-----|-----------------------|-------------|
| 総高 片高 上幅 下幅 厚さ       |     | 神式                    | 平成24年7月27日  |
| 825 785 192 160 30   |     | 仏式                    |             |
| 842 800 220 185 35   |     |                       | 平成24年7月27日  |
| 821 775 200 157 15   | 右   |                       | 平成24年7月28日  |
| 808 785 108 107 14   |     |                       |             |
| 816 800 122 113 12   |     |                       |             |
| 543 539 101 89 9     |     |                       |             |
| 847 825 152 123 15   | 右   |                       |             |
| 541 523 123 102 12   |     | 仏式                    | 平成24年11月11日 |
| 678 658 120 90 20    | 左   |                       |             |
| 562 545 111 104 16   |     |                       |             |
| 693 682 136 122 15   |     | 明治12年12月8日火災<br>焼失の復興 |             |
| 1058 1046 156 140 16 |     |                       |             |
| 927 173 165 17       |     |                       |             |

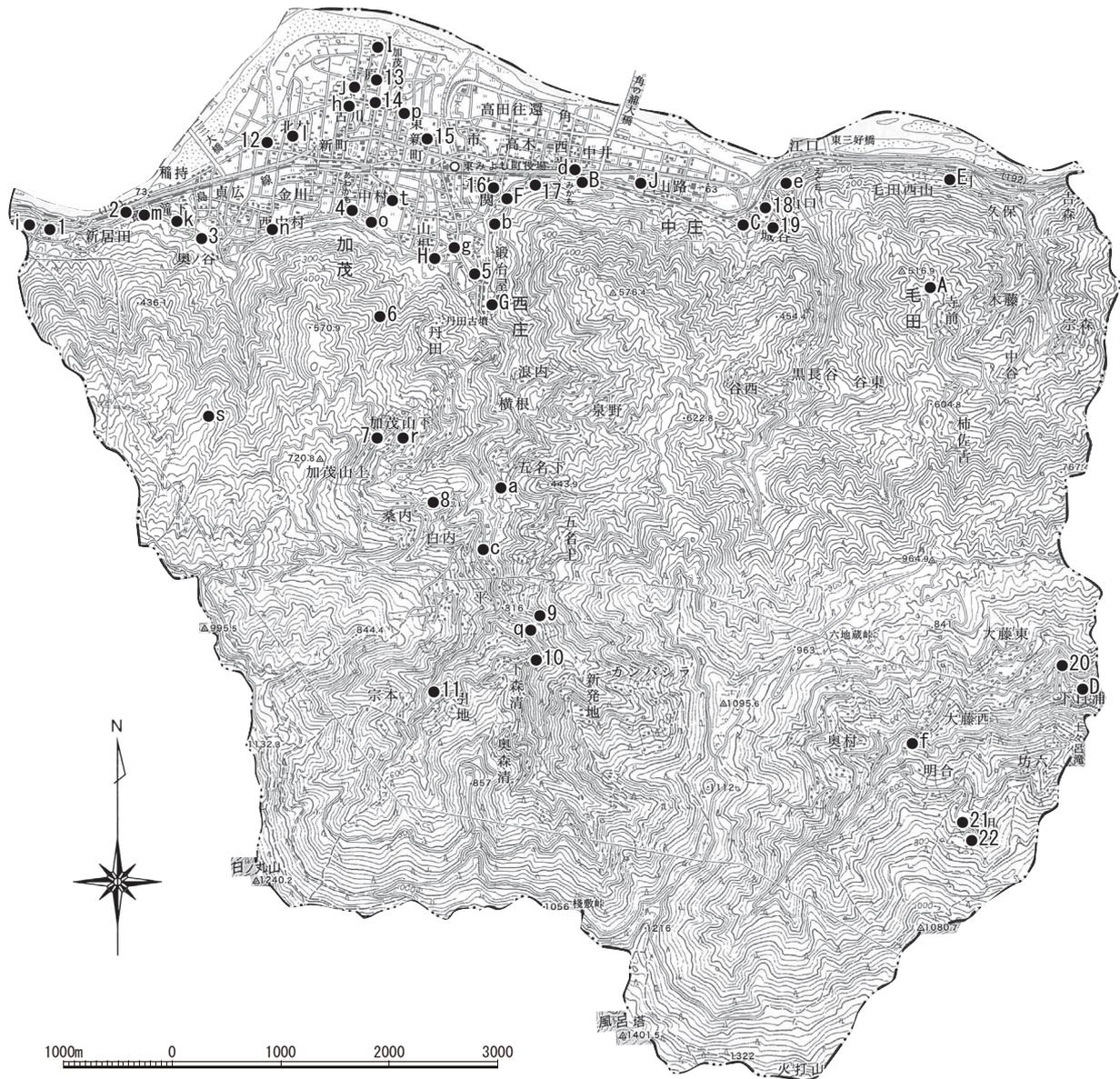


図12 社寺案内図

### 3. 東みよし町「旧三加茂町」の社寺

#### 1) 鴨神社本殿 (表1-g)

鎮座地—加茂字山ノ上3650

[本殿] 木造 三間社入母屋造千鳥破風 銅板葺

身舎—円柱 (上粽) 切目長押 内法長押

頭貫木鼻 (獅子) 厚台輪留

三手先 (直線肘木) 中備彫刻 連斗

二軒繁垂木 切石基壇 (花崗岩) 棧唐戸

妻飾・虹梁 蟻股

向拝—總破風 軒唐破風 角柱 (几帳面取)

虹梁型頭貫木鼻 (象) 出三斗 (直線肘木)

中備彫刻 手狭 三方切目縁 芻高欄

階 (板) 昇擬宝珠高欄 浜床 腰組・束立貫

脇障子 (彫刻)

千木—垂直切2本 堅魚木—4本

図 (13~16)

この社は旧郷社であり、延喜式内社である。旧三加茂町の北部、加茂谷川の西岸の丘の上に鎮座する。創建年代は不詳であるが、町史には「貞観二年以前の創建にして京都上賀茂神社の勧請所である」との記述がある。

本殿は三間社の入母屋造銅板葺で、花崗岩の切石積みの基壇に載る (図13)。身舎部分は円柱 (上粽) を切目長押と内法長押で固め、柱頭部には獅子鼻付の頭貫と厚台輪が載る。斗栱は三手先で、柱間には連斗と中備彫刻を填める (図14)。軒は二軒繁垂木とし、妻飾は虹梁の上に蟻股が載る。

向拝部分は總破風、軒唐破風で、几帳面取の角柱を虹梁型頭貫 (象の木鼻付) で固める。柱頭部の斗栱は出三斗で、柱間には中備彫刻を詰め、手狭で身舎と繋ぐ (図16)。縁は三方切目縁で、芻高欄が彫刻を施した脇障子に取り付く。軒は二軒繁垂木である。階は板階段とし、浜床を張り、腰組は束を立て、貫を通す。

この本殿の特徴の一つが、曲面加工を施さない直線肘木が斗栱に使われていることである。建築年代は、直線肘木と彫りの深い彫刻から、明治期の建立と推測する。



図13 本殿側面



図14 本殿組物 (三手先・直線肘木)



図15 本殿正面 (棧唐戸)



図16 本殿向拝 (手狭)

2) 貴布禰神社 末社・出雲神社 (表1-1c)

鎮座地—西庄平7

[末社・出雲神社] 木造 一間社流造 鉄板葺  
 身舎—円柱 切目長押 内法長押 頭貫木鼻 (象)  
 台輪留 三手先 (直線肘木) 詰組 連斗  
 二軒繁垂木 棧唐戸 妻飾・大虹梁  
 二重虹梁 大瓶束 (2本)

向拝—角柱 (几帳面取) 虹梁型頭貫木鼻 (龍)  
 出三斗 (直線肘木) 連三斗 中備彫刻  
 繫海老虹梁 手挟 二軒繁垂木 三方切目縁  
 脇障子 (彫刻) 階三級 (板) 擬宝珠高欄  
 腰組 浜床  
 千木—上手 (水平切1本) 下手 (垂直切1本)  
 堅魚木—2本 図 (17~20)

この社は、旧三加茂町の中央部から加茂谷川沿い南方の、西庄平に鎮座する。町史には、「明治42年に社殿三棟を焼失し、同43年に神社合併し、同年に再興した」と記述がある。

出雲神社は、貴布禰神社本殿の一間社流造銅板葺

と同規模で、東隣に位置する末社である。一間社流造鉄板葺に水平・垂直切の置千木が付く (図17)。身舎部分は、円柱を切目長押と内法長押で固め、柱頭部には頭貫木鼻 (象) と台輪留が載る。組物は三手先とし、中備に詰組を配し、通し肘木に連斗を載せる。軒は二軒繁垂木とし、妻飾は大虹梁の上部に2本の大瓶束で一手先通肘木を受け、二重虹梁を支え、その上に皿斗を二重に重ね、斗栱は二手先とする。支輪には彫刻板支輪を詰め、破風にはかぶら懸魚が取り付く (図18)。

向拝部分は、几帳面取の角柱を立て、虹梁型頭貫 (龍の木鼻付) で固める。柱頭部には大斗を置き、出三斗で軒を受け、中備には彫刻を填める。身舎との繋ぎに海老虹梁と手挟を併用する (図20)。縁は、三方に切目縁を回し、身舎背面柱筋に脇障子が付く。高欄は擬宝珠高欄とする。階は三級の板階段とし、浜床を張る。

明治期に流行した直線肘木や彫刻など、賑やかな意匠となっており、近代の特色ある建築である。



図17 出雲神社 全景

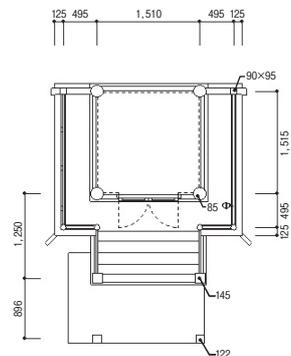


図19 出雲神社 平面図

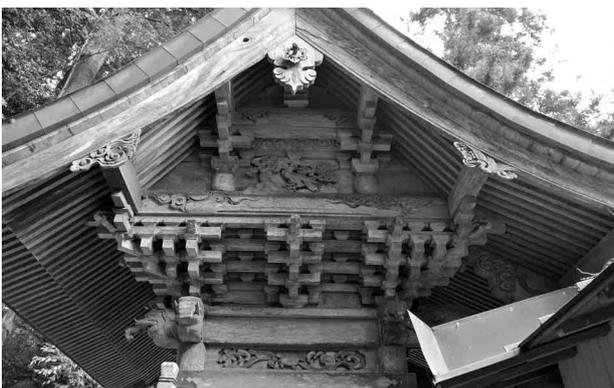


図18 出雲神社 妻飾



図20 向拝木鼻 (龍) と繫海老虹梁

3) 新宮神社 (表1-j)

鎮座地—加茂字才ノ神

[本殿] 木造 二間社入母屋造 銅板葺

身舎—円柱 (上粽) 切目長押 内法長押

頭貫木鼻 (拳) 台輪留 中備彫刻

二軒繁垂木 腰板張 龜腹切石基壇 (花崗岩)

妻飾・虹梁

向拝—角柱 虹梁型頭貫木鼻 (獅子) 出三斗 手扶

二軒繁垂木 四方切目縁

隅行脇障子 (彫刻) 刎高欄

千木—水平切3本 鯉魚木—3本

(図21~24)

この社は、加茂の大クスより約300m西に鎮座する。和歌山県新宮市にある熊野速玉大社を勧請した社である。寛保御改神社帳によれば、「明治3年(1870)に新宮神社と改称す」。町史には「明治10年(1877)11月の大火により社殿や古木に至るまで焼失し、同12年(1879)に再興す」と記述がある。

本殿は、二間社入母屋造銅板葺で、花崗岩の切石

の布積基壇に建つ (図21・22)。身舎部分は、円柱 (上粽) を切目長押, 内法長押 (彫金) で固め, 横羽目板の壁を張る。柱頭部は, 頭貫木鼻 (拳) と台輪留が載り, 斗栱は三手先 (二重尾垂木) とし, 天井は連斗と板彫刻支輪, 軒は二軒繁垂木とする。屋根は, 千鳥破風付緹破風軒唐破風の複雑な形状を持つ。

向拝は, 角柱を虹梁型頭貫木鼻 (獅子) で固める。身舎の繋ぎは, 籠彫りの手扶 (渦と雲模様) が付き, 柱頭部の斗栱は出三斗とする (図24)。縁は, 四方切目縁とし, 隅行に松と鷹を彫刻した脇障子が付く。二手先の腰組で支持し, 刎高欄 (先端一部損傷) を付ける。

所蔵する6枚の棟札調査を行い, 新宮神社の棟札としては, 明治21年(1888)のものがあり, 前述の年代より9年後の上棟と確認した。

流造が多い中, この社は二間社入母屋造で, 神仏習合の名残であり, 希少で貴重な建築である。



図21 本殿全景

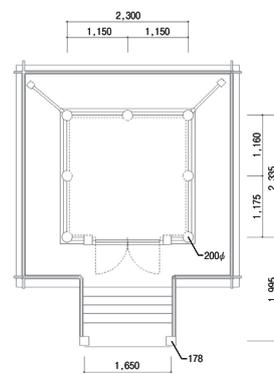


図23 本殿 平面図



図22 本殿背面

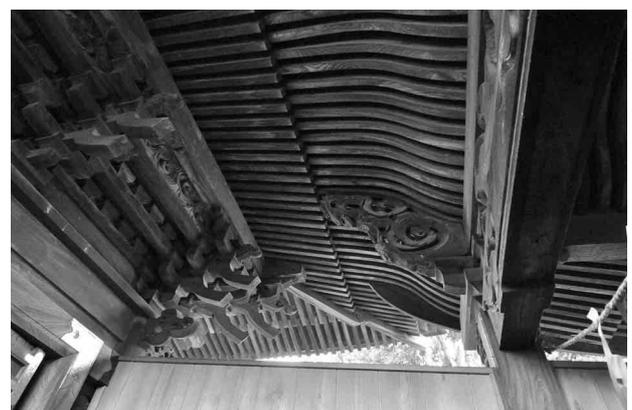


図24 本殿の身舎と向拝の組物

4) 舞寺 (表2-A)

所在地—毛田1111

□仁王門 (鐘樓門)

木造 三間一戸八脚門 入母屋造 鉄板葺  
 角柱 (角面) 虹梁 腰貫 内法貫 頭貫木鼻 (拳)  
 台輪 虹梁型頭貫 飛貫 出三斗 一軒疎垂木  
 縦板目板張 金剛垣 妻飾 鉄板卷 通路部 竿縁  
 天井 切石積基壇 (緑泥片岩) 土台

□大師堂

木造 桁行三間 梁間四間 寄棟造 鉄板葺  
 主屋—角柱 (角面・上粽) 切目長押 内法長押  
 頭貫木鼻 (拳) 台輪木鼻 隅部出三斗  
 中央部平三斗 (拳鼻) 一軒扇垂木 開閉装置  
 正面：腰板付格子戸 側面：舞良戸  
 三方切目縁 東立 野面石乱積基壇 (緑泥片岩)

□本堂 (観音堂)

木造 正面三間 奥行四間 宝形造 銅板葺  
 [主屋]—礎石 (緑泥片岩) 角柱 (角面) 切目長押  
 内法長押 台輪 頭貫木鼻 (正面：獅子,  
 東面：獅子と猯, 西・背面：無) 出組  
 連斗 二軒繁垂木 開閉装置 舞良戸  
 背面：火灯窓  
 [向拝]—礎盤 (和泉砂岩) 角柱 (几帳面)  
 虹梁型頭貫木鼻 (獅子) 皿斗 出三斗 (皿  
 斗付) 中備彫刻 (竹・虎) 手挟 (籠彫)  
 茨鱗付二軒繁垂木 三方切目縁 東立 貫  
 外陣—拭板張 格天井 (一間一花：花と紋柄)  
 内陣—畳敷 奥筋丸柱 仏壇 格天井 (一間一花)

□鎮守堂

木造 一間社流造 見世棚造 銅板葺  
 [身舎]—円柱 (上粽) 切目長押 内法長押 頭貫木  
 鼻 (拳) 薄台輪 台輪留 出組 (直線肘木)  
 連斗 二軒繁垂木 開閉装置 棧唐戸  
 妻飾・虹梁  
 大瓶束笈形付 野面石乱積基壇 (緑泥片岩)  
 [向拝]—角柱 (几帳面) 虹梁型頭貫木鼻 (拳)  
 出三斗 (直線肘木) 中備彫刻 (松) 手挟  
 二軒繁垂木 三方切目縁 擬宝珠高欄  
 昇擬宝珠高欄 腰板張 脇障子 (板)

(図25～29)

この寺は、旧三加茂町の北東部、国道192号とJR徳島線の南側の山上に所在する。山号を金丸山、院号を無量寿院、観世音菩薩を本尊とする。真言宗の宗祖・弘法大師 (空海) の開基と伝えられ、舞寺山山頂に建つ山岳寺院である。

山門は金剛力士像が安置され、三間一戸八脚門の形態を持つ鐘樓を兼ねた仁王門である (図25)。

門を潜り階段を上ると、境内は広く、伽藍の中心には本堂である観音堂、その右側に寄棟造の大師堂、左奥に一間社流造の鎮守堂が建つ。県内の平野部でもこれほど立派な伽藍を持つ寺院は少ない。本堂と大師堂の建立は、建築様式より江戸時代末期まで遡るものと考えられる。

本堂は、正面三間 (7.88m)、奥行き四間 (8.22m) と標準的な規模の堂宇である。正面には縋破風 (屋根勾配の延長線上に突き出す) の向拝を付ける。向拝柱の脚元の石造礎盤に線刻が施され、向拝柱頭部に皿斗がみられる。屋根の傾斜を強くし、垂木は茨鱗付きの垂木とし、柱間の中備彫刻 (竹に虎) や主屋との繋ぎの手挟には、籠彫 (牡丹) などの彫刻が精巧で、幕末の様相が顕著である。また、背面中央に大きな火灯窓を開くのは独特で、頭貫に獅子や猯などの木鼻を付けて賑やかに飾るが、西面にはそれらが省略されている (図26)。内部の間取りは、前筋一間を外陣とし、その奥を内陣とする。内陣の奥筋に円柱を立て、腰高さの仏壇を設け厨子を安置する。床は外陣が拭板張り、内陣は畳敷きとする。天井は内陣・外陣とも格天井で、一間一花 (花と紋柄) で飾る。

大師堂は質素な小堂で、角柱 (上粽) に柱頭部の組物も平三斗と簡素に仕上げる。この建物は、屋根を寄棟造とし、粽柱、台輪、建物の中心から放射線状に配する扇垂木などの禅宗様と、長押や舞良戸などの和様で構成される折衷様式である (図27)。

鎮守堂とは、寺院を守護する神のための堂宇で、神仏習合のなごりといえる。野面石乱積基壇 (緑泥片岩) に建つ、一間社流造で階を略した見世棚造の神社建築である。建立時期は明治時代で、組物の一部に近世の肘木の様式にはみられない直線肘木がみられる (図28)。

伽藍が残る山岳寺院として、貴重である。



図25 仁王門



図27 大師堂



図26 本堂 (観音堂)



図28 鎮守堂 直線肘木の組物

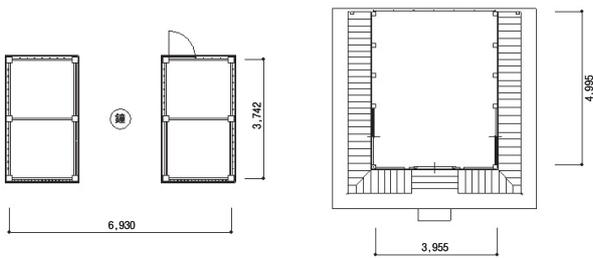


図29 仁王門・大師堂平面図

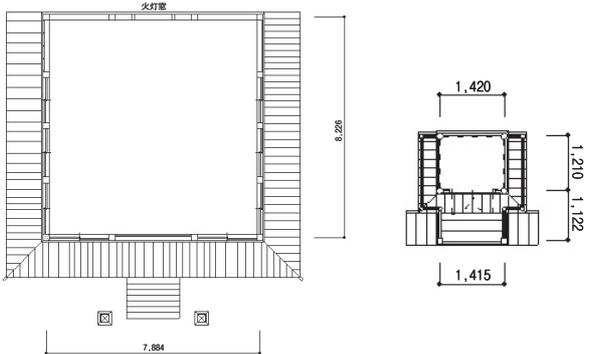


図30 本堂・鎮守堂平面図

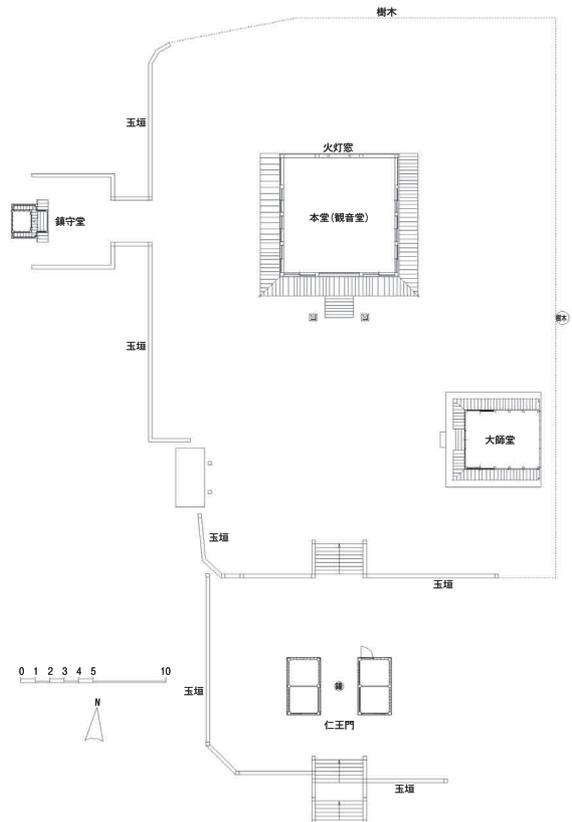


図31 境内伽藍配置図

#### 4. おわりに

神社建築は、本殿の様式は流造か入母屋造であったが、小社殿では疑似神明造がみられた。鴨神社の豊受大神宮の小社殿は、平入切妻造で鞭掛があること、棟持柱があることから、神明造を意識していると考えられる。本殿の規模は、ほとんどが一間社であり、三間社が中庄村道南の金丸八幡神社・鴨神社・加茂稻荷持上の稻荷神社で、二間社が新宮神社でみられた。地神塔を祀る神社は3社と少なく、八柱神社・金丸八幡神社・西庄国政の小宮であった。

寺院建築は、3カ寺の本堂が江戸時代末期の建築で最古のものとなり、これよりも遡るものはなかった。本堂の規模は、林下寺と興聖寺の桁行七間が大きく、平均的なものは桁行五間である。山門は仁王門と鐘楼門、薬医門を確認したが、楼門や唐門などはみられなかった。鐘楼は4カ寺で四脚式のを

確認し、特に興聖寺の鐘楼は、絵様より幕末から明治時代の建物と推測する。

最後に、今回の調査において、神社やお堂の場所の特定に苦労したが、住民の方々のご協力を得て調査することができた。また、東みよし町文化財保護審議会会長の伊藤氏をはじめ、新宮神社宮司のご協力を得て、貴重な調査をすることができた。この場を借りてお礼を申し上げる。

#### 参考文献

- 『三加茂町史』(1971) 三加茂町
- 『仏教堂塔事典』(1979) 東京美術
- 『徳島県神社誌』(1981) 徳島県神社庁
- 『阿波のお堂』(1988) 徳島県出版文化協会
- 『徳島県の近世社寺建築』(1990) 徳島県教育委員会
- 『古建築辞典』(1994) 理工学社
- 『三好郡のお堂とお庵』(2001) 三好郡行政組合
- 『とくしま建物再発見45・舞寺』(2003) 徳島新聞
- 『三加茂町史(続)』(2006) 三加茂町

Architecture of shrines and temples in “ex-Mikamo Cho”, Tokushima, Japan

SAKAMAKI Nobuyo, KITSUMOTO Miho, KIMIYA Shigeki, KUROSAKI Hitoshi, SAKAGUCHI Toshiji, NAKANO Masahiro, NAKAYAMA Hideki, MANABE Kenji, MATSUE Sumio, MIYATA Yasunori, MORIKANE Saburo,

Proceedings of Awagakkai, No. 59(2013), pp.101-112